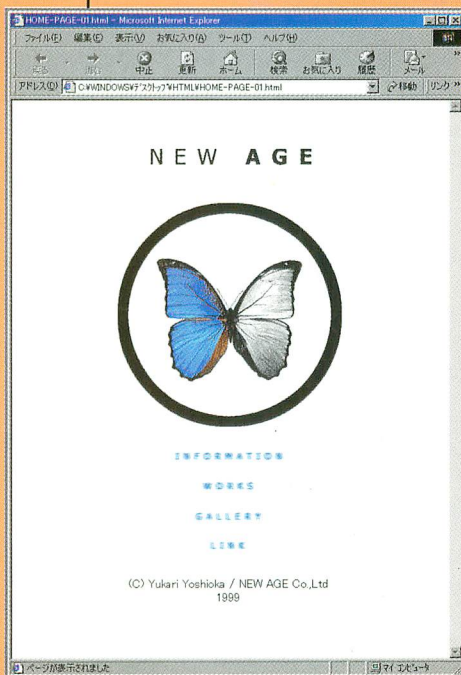
1 WEEK MASTER
7th DAY !!!

Sunday

今日マスターすること TODAY'S GOAL !!!

ImageReadyでホームページを作ろう

STEP 1 ••(ホームページ作成の大原則

STEP 2 ••(ホームページ用の画像を作る

STEP 3 ••(スライスの作成

STEP 4 ••(ロールオーバーの設定とHTML書き出し

STEP 5 ••(GIFアニメーションを作る

ホームページ作成の大原則

ホームページはモニタで見るもの！

☞ヒント!!
ここで「？」という感じの人は、「火曜日」STEP1をもう一度読んでくださいね。

印刷物は最後は紙ですが、ホームページはモニタに表示させて見るものですよね。ですから、カラーモード、最後の出力形式などは、紙を目的とした画像作成とはいろいろと異なる部分もあります。まず、ホームページ用の画像は、必ず次の3つの状態で作成してください。

(1) カラーモードはRGBにする！

(2) 解像度は72ppiで作る！

(3) 画像の単位はピクセル！

「なんでこうするの？」と聞かれれば、答えは簡単。「モニタがそうだから！」です。「色、画質、サイズ」をすべてモニタの基準に合わせると、こうなるわけです。

☞ヒント!!

アナログ回線とデジタル回線

一般電話回線を「アナログ回線」と呼ぶのに対し、ISDN（統合サービスデジタル通信網）を「デジタル回線」といいます。ISDNは、音声やファクスはもちろん、データなどの情報をデジタルデータで送ることができます。また、アナログ回線よりも高速なのも魅力です。そのため、ホームページの表示や、メールでの画像の送受信などを短時間でできるといったメリットがあります。また、特定の相手と常時接続した状態で利用できる「専用回線」というものもあります。専用回線の多くはデジタル回線で接続され、通常のISDN回線などの公衆回線に比べれば混雑もないので、通信速度も速いです。

サイズダウンを追求する！

ホームページは、一般的には電話回線などを通してデータのやり取りを行います。ISDNや専用回線などの高速のデジタル回線を利用している人だけでなく、実際にはアナログ回線を使っている人もたくさんいるわけですから、そうした人にも親切なように、作ってあげたいですよね。

ネットサーフィンしていると、トップ画面が現れるまですごく時間のかかるページがあります。「いい加減にして〜！」という思いで待っていると、「どーしてこんな画像でこんなに時間がかかるの〜？！」という絵が出てきたりします。

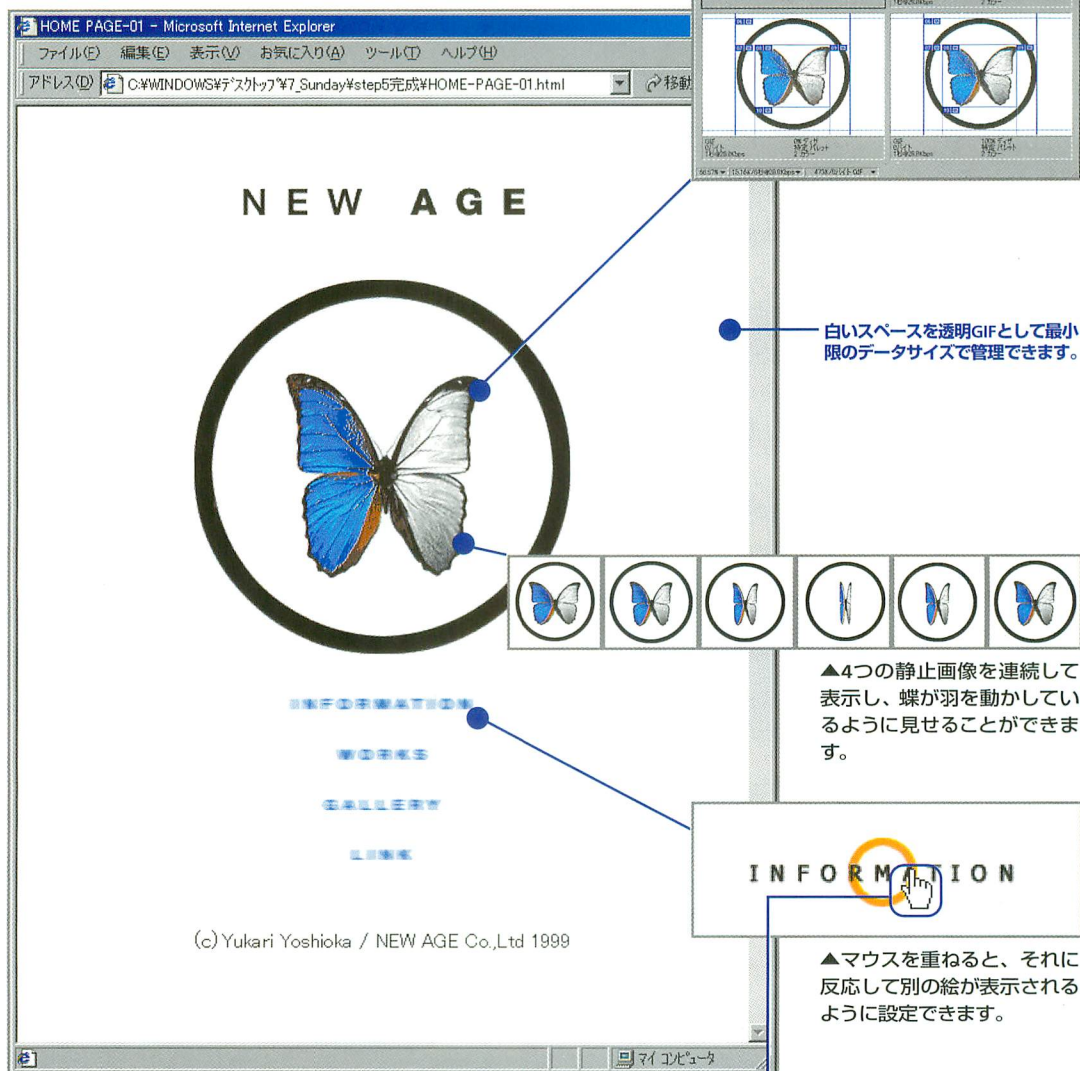
原因は、必要以上に大きな画像だったり、ファイルサイズにまったく注意が払われていなかったりするせいです。プロのホームページ制作者は、データサイズをいかに小さくするかに命をかけています。ホームページを開設して早々「このページは遅い」という印象を与えてしまうと、再訪者はまずいません。商品価値がなくなるわけです。そうなると、制作者・制作会社にとっては死活問題。データサイズを小さくして、かつ内容の充実したデザインのいいものが求められるのです。

▶ファイル形式、色数などを異なる設定にした画像を、3種類までシミュレーションして、最適な画像に変換できます。Photoshopの［Web用に保存］コマンドでも同様に設定できます。

白いスペースを透明GIFとして最小限のデータサイズで管理できます。

▲4つの静止画像を連続して表示し、蝶が羽を動かしているように見せることができます。

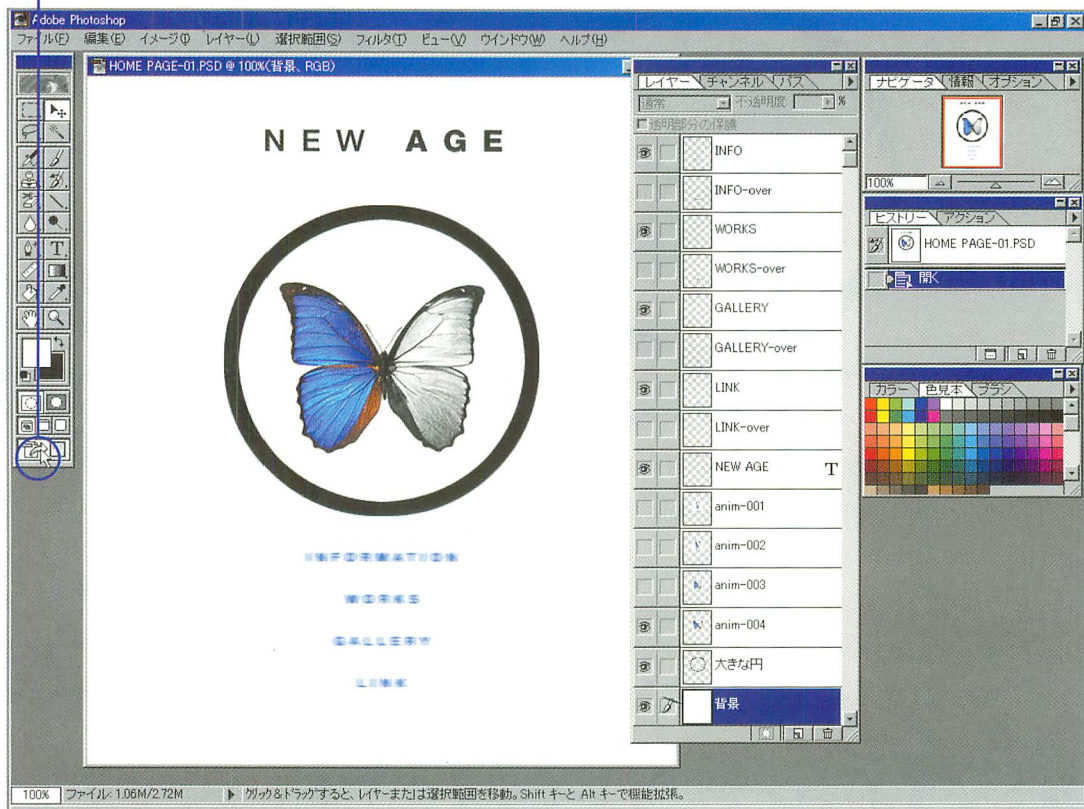
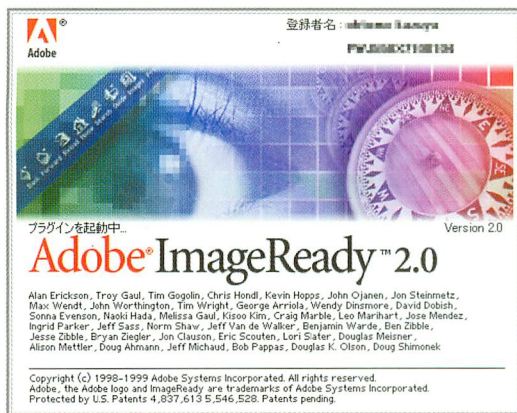
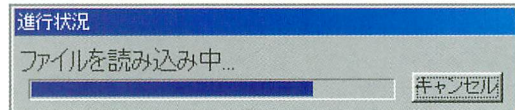
▲マウスを重ねると、それに反応して別の絵が表示されるように設定できます。

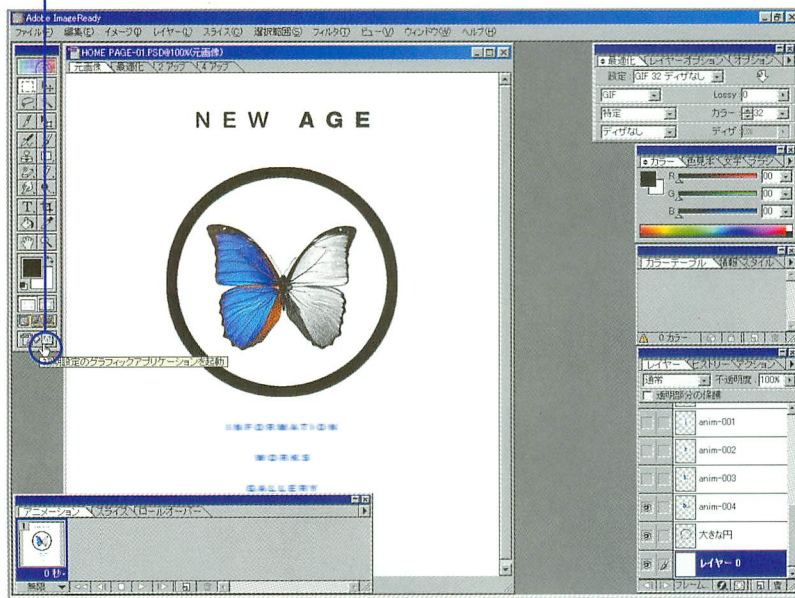
クリックすると、［INFORMATION］ページへジャンプするようにできます

1 ImageReadyを使えば、こんなホームページを作ることができます。

ImageReadyとは

Adobe ImageReadyは、Web画像を作り出すための専用ソフトです。Webに適した画像に変換する機能が大変すぐれていて、ファイル形式や色数などに基づいて変換できることはもちろん、ファイルサイズを基準に変換するといった便利な変換機能を備えています。そのほか、クリックボタンやGIFアニメーションの設定も可能です。Photoshop同様のペイント機能や色補正機能も備えていますが、Photoshopと切り替えて使うことができますから、通常の画像処理はPhotoshopで行い、Webに特化した機能を使うときはImageReadyに切り替えて作業すれば、効率的に進められるでしょう。もちろん、ファイルはPhotoshopと完全互換です。

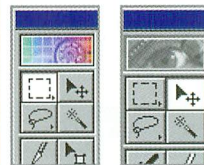
実際の作業はSTEP2から行います。ここでは概略を把握しましょう。

クリックしてPhotoshopと
ImageReadyを切り替える

1 これはPhotoshopの画面です。ツールボックスの一番下に用意されているボタンで、ImageReadyに切り替えることができます。ImageReadyは、Photoshop形式（PSD）のファイルを、レイヤー情報などを保ったまま開くことができます。そして、ImageReadyで画像スライス、ロールオーバー効果、GIFアニメーションなどを設定してPSD形式で保存し、再度Photoshopで開くことができます。

2 ImageReadyに切り替えるボタンをクリックすると、ImageReadyが起動します。

3 図1のようにファイルを開いた状態でImageReadyに切り替えると、Photoshopファイルを ImageReadyファイルに変換するバーが現れます。ImageReadyはPhotoshopファイルと完全に互換性があるので、自由にPhotoshopとの行き来ができます。

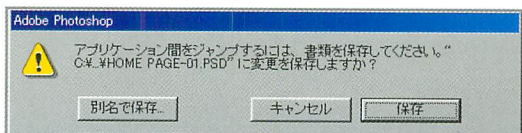
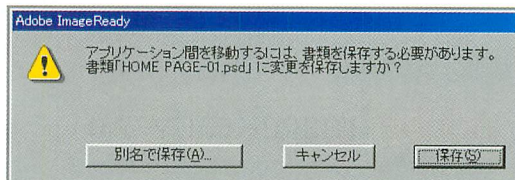
クリック

4 これはImageReadyの画面です。図1と見比べてください。どこが違うかわかりますか？　ほとんど同じような環境で作業できるのです。Photoshopに戻すときは、ツールボックスの一番下の切り替えボタンをもう一度クリックします。

☞ヒント!!

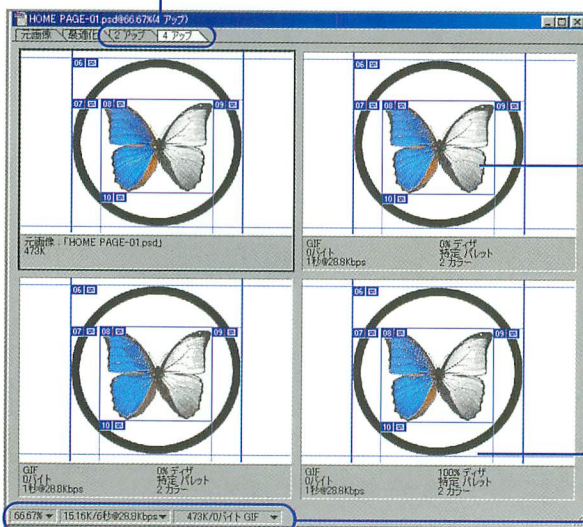
アプリケーションの見分け方

PhotoshopとImageReadyとは、細かい部分では違いがあるのですが、慣れないとわからないくらいよく似ていますよね。最初はツールボックスの一番上の絵柄で区別するといいでしょう。

▲左がImageReadyの、右がPhotoshopのツールボックス。

切り替える際の注意

PhotoshopとImageReadyを切り替えながら作業する場合は、切り替える前に必ず保存を行ってください。保存せずに切り替えると、アラートが現れます。

1 Photoshopで作業中にImageReadyに切り替えると、「ImageReadyファイルに変換する前に保存してください」という内容のアラートが出てきます。[保存] ボタンをクリックして保存操作を行います。

2 ImageReadyで変更を加えた後、Photoshopに切り替えて作業を続けようとすると、「Photoshopファイルに変換する前に保存しますか？」とアラートが現れますので、[保存] ボタンをクリックします。

分割画面で最適化する

ImageReadyでは、ウィンドウを最高4画面に分割して、それぞれに最適化を実行できます。最適化は全体に対してでなく、スライス単位でも設定できます。その設定は［最適化］パレットで行いますが、「ファイル形式」はGIFまたはJPEGにするのが一般的です。GIFでの色数は、最適化実行後のプレビューで画質とファイルサイズを見比べながら、許せる範囲で決めてください。

(3) [最適化] パレットでファイル形式などを設定する

(4) 設定に合わせて画像が変換され、プレビューされる

ヒント!!

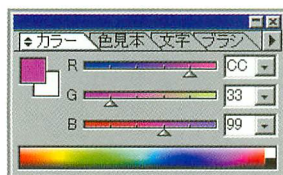
GIFとJPEG

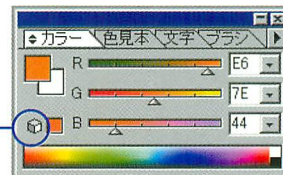
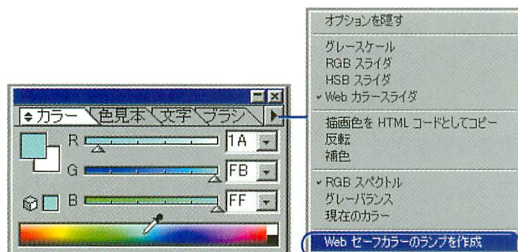
どちらも、Webで最も広く使われているファイル形式です。連続階調のある写真はJPEG、文字や簡単なイラストなど単色の多いグラフィックにはGIFが適しています。この2つのファイル形式を使い分けて、よりきれいな画質で、データサイズを小さくするのです。

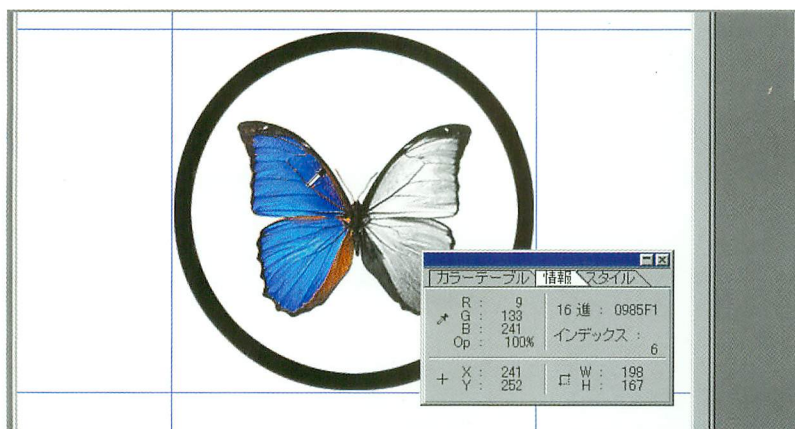
スライス

画像を分割すること、または分割された個々のエリアをいいます。

色の選び方

ImageReadyはWeb用の画像を作成することを前提としていますので、色の管理もHTMLで使用されている16進数で行います。[カラー] パレットの表示も16進数です。Webセーフカラーと呼ばれる、MacintoshとWindowsに共通する216色のパレットは、数字が00、33、66、99、CC、FFの色の組み合わせです。

1 ▲をドラッグすると、各色が16進数で表示されます。通常は▲がスライダの区切り線にスナップするので、Webセーフカラーが選ばれます。

Webセーフカラー以外の色を選ぶと、警告のマークが表示されます。このマークをクリックすると、Webセーフカラーの範囲内で近い色を選び直してくれます。

2 Ctrlキーを押しながら▲をドラッグすると、区切り線以外に配置でき、Webセーフカラー以外の自由な色を選ぶことができます。

3 パレットのメニューの [Webセーフカラーのランプを作成] にチェックすると、カラーピッカーがWebセーフカラーに限られます。

> **☞ヒント!!**
>
> **Webセーフカラー**
>
> 各色の00、33、66、99、CC、FF（RGBの数値で言うと0、51、102、153、204、255）の6種類とRGB3色の組み合わせは、6の3乗で216色となります。これをWebセーフカラーと呼んでいます。ページを見る人の環境がMacintoshでもWindows以外でも、モニタに表示可能な色数などが違っても、同じように見せたいという場合は、Webセーフカラーを使うことをおすすめします。

4 情報パレットでも色が確認できます。16進数では6桁で表示されますが、R、G、Bそれぞれ2桁ずつの数値です。つまり0985F1は、R：09、G：85、B：F1です。これはWebセーフカラーの組み合わせではないので、ページを見る側の環境によって色が多少変わってしまいます。

ホームページ用の画像を作る

ホームページ用のフォーマットは、Photoshopで作成したものがCD-ROMに用意されています。このステップで手順を説明しますので、余裕のある人はフォーマットを最初から作ってみましょう。余裕のない人はこのSTEPを飛ばし、STEP3から練習を始めてください。

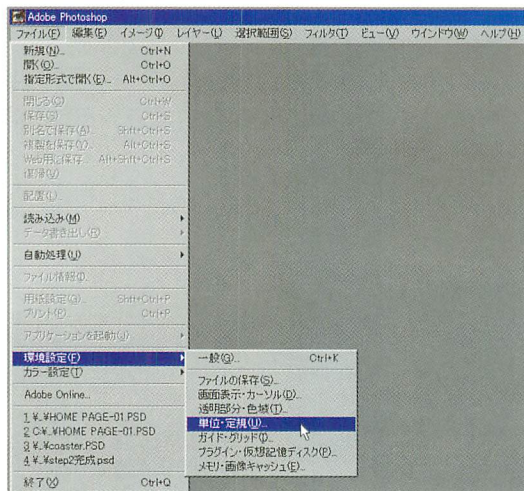
(1) ピクセル単位に切り替える

単位を、ホームページの基本単位であるピクセルにします。

(2) アニメーションに必要な画像を作る

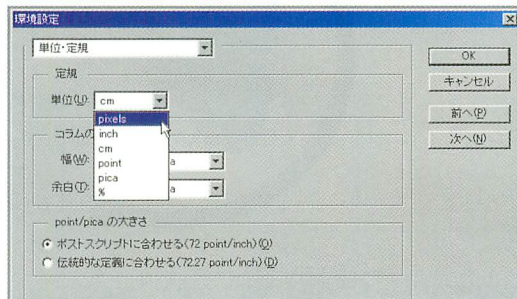
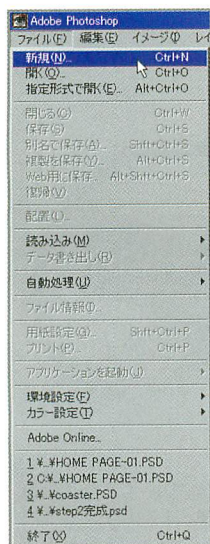
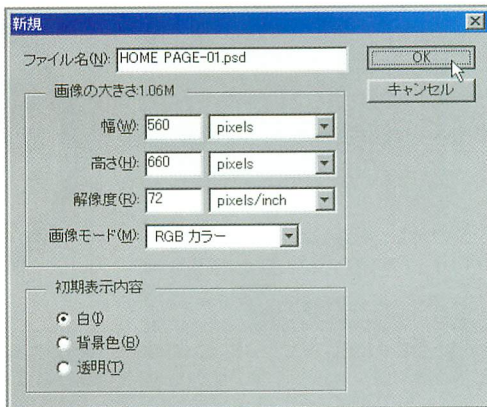
蝶が羽ばたく様子をアニメーションにしますので、羽の状態の違う4つの画像を作ります。

(3) ボタンが反応するときの画像を準備する

マウスがボタンに重なったときに反応するようにしますので、その変化を加えた画像を作ります。

1 [ファイル] メニュー→ [環境設定] → [単位・定規] を選びます。

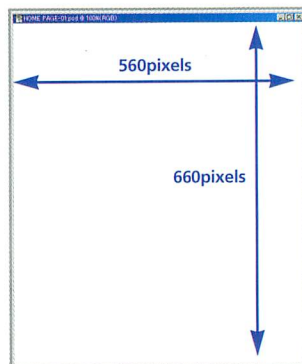
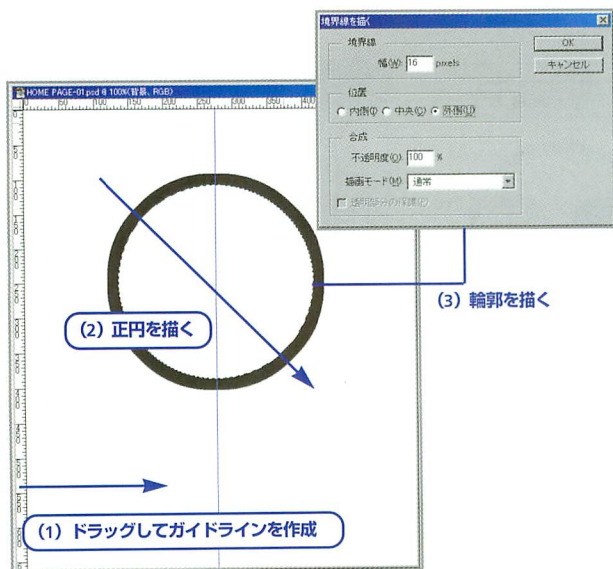
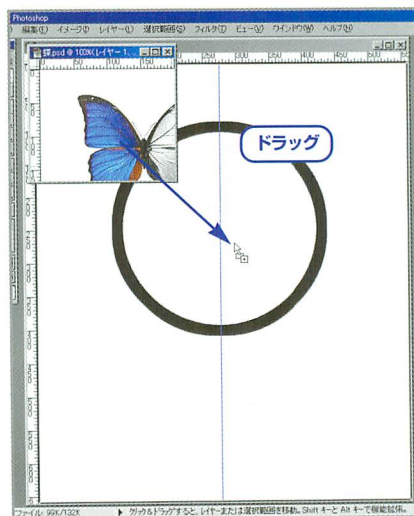
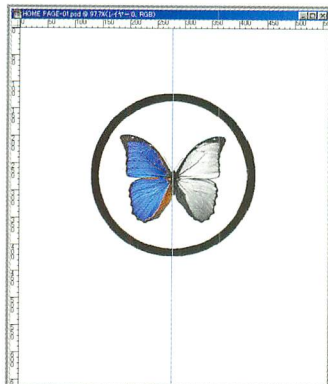
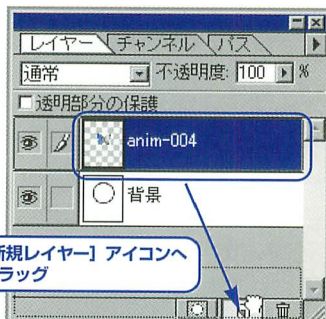
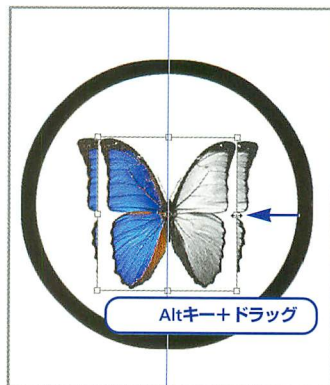
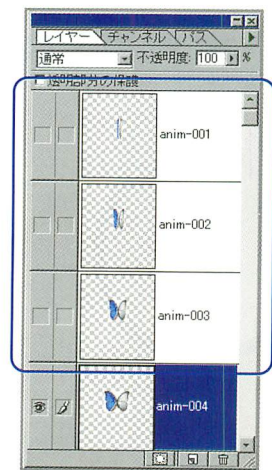
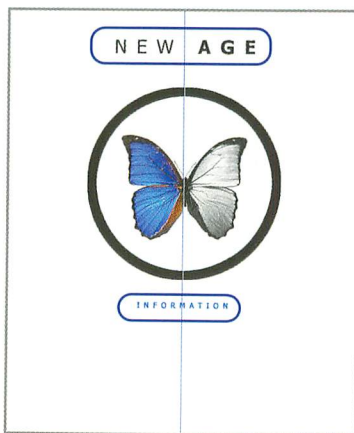
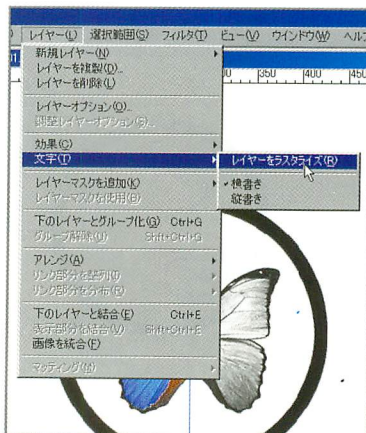
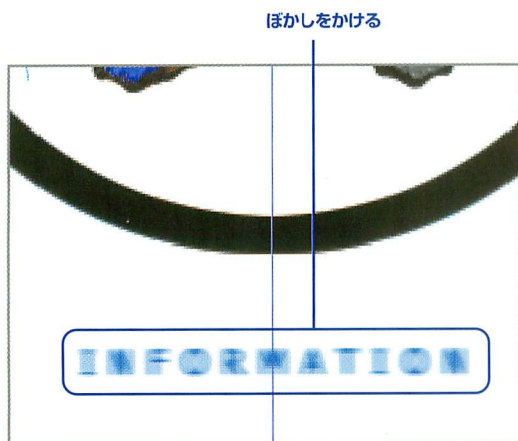
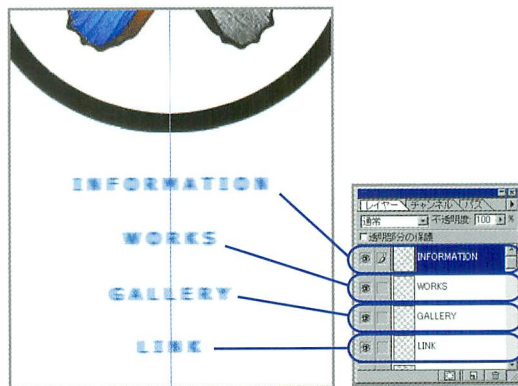
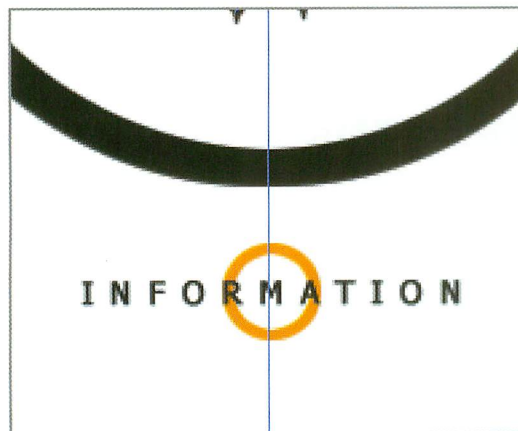
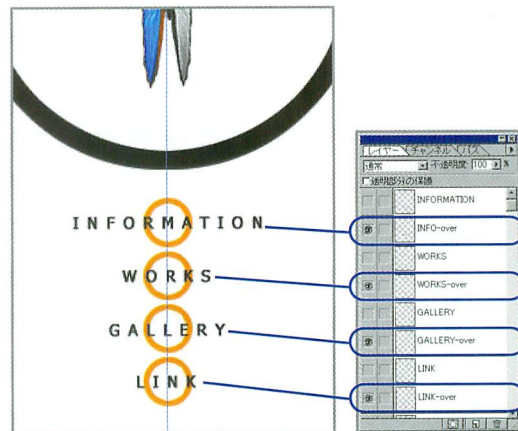
ここがポイント!!

ホームページはピクセル単位で

ホームページはモニタで見るものですよね。だから、モニタの単位であるpixelを単位にしておきます。「ボタンは幅50ピクセルくらいで作ってね」なんて言われたときに、だいたいこれくらいのサイズかなと想像できるように、ピクセルという単位にも慣れておくことが必要です。

2 [環境設定] ダイアログボックスの [単位・定規] 設定画面が開きます。[定規] の [単位] を [pixels] に切り替えて [OK] ボタンをクリックします。

3 ［ファイル］メニュー→［新規］（Ctrlキー＋N）を選びます。

4 画像の大きさを図のように設定します。［ファイル名］を付けるのは最後の保存時でもかまいませんが、ここでは最初のうちに、「HOME PAGE-01」としました。

ここがポイント!!

幅は500～600ピクセル

新規で作成する幅が、ホームページの幅になります。特に決まりはありませんが、500～600ピクセルにするのが一般的です。

5 指定したサイズで新しいファイルが開きます。

6 真ん中にガイドラインを引きます。新規レイヤーを作成して、［楕円形選択］ツールでShiftキーを押しながら正円を描きます。［編集］メニュー→［境界線を描く］を選択し、［幅］を16ピクセルに指定して輪郭線を作成します。このレイヤーには「大きな円」という名前を付けます。

7 蝶のデータは「7_Sunday」フォルダの「蝶.psd」を開き、ドラッグ＆ドロップで「HOME PAGE-01.psd」ウィンドウへ取り込みます。

8 円の中央に収まるように蝶を配置し、[anim-004] とレイヤー名を変えます。

9 これから、アニメーション用の画像を作成します。蝶のレイヤーを [新規レイヤー] アイコンにドラッグして複製します。

10 複製した蝶のレイヤーを選択し、Ctrlキー+T ([変形] コマンドのショートカットです!) を押して、ハンドルをAltキー+ドラッグして中心を基準に幅を狭くします。

11 同様の手順で、蝶が羽をだんだん閉じていくように、幅の狭い画像を別々のレイヤーで作っておきます。この4段階の蝶を連続して表示することで、羽をバタバタしているように見せるのです。

12 [文字] ツールを使って図のように文字を入力します ([NEW AGE] レイヤーと [INFORMATION] レイヤーができます)。[INFORMATION] レイヤーを選択して、[レイヤー] メニュー→ [文字] → [レイヤーをラスタライズ] を選択します。

13 続いて、「INFORMATION」の項目を選択し、［フィルタ］メニュー→［ぼかし］→［ぼかし（移動）］で、［角度：0］、［距離：5］程度にぼかします。同様にしてその下に「WORKS」「GALLERY」「LINK」の文字を入力し、同様に加工します。

14 これでトップ画面の最初の状態ができました。各項目は［INFORMATION］［WORKS］［GALLERY］［LINK］という4つのレイヤーに分かれています。

15 「ロールオーバー」という機能を使って、マウスが重なったときに絵が変わるようにしますので、反応したときの画像を同じ位置に作成します。マウスを重ねたときにシャープな文字に変わるように、4つの項目ボタンに対して画像を別レイヤーに作成します。

16 それぞれの項目に対する反応したときの画像は［INFO-over］［WORKS-over］［GALLERY-over］［LINK-over］という別レイヤーにします。目のアイコンをクリックすることで、表示・非表示の切り替えができます。ここでは図14で作成した4つのレイヤーを非表示にして、反応する画像のレイヤーだけを表示しています。これで完成です。

スライスの作成

このステップの流れ

GIFアニメーションにしたり、ボタンに利用することを考えて、スライス機能を使って画像を分割しておきましょう。

(1) ホームページ用の画像を開く

Photoshopで作成した画像を開きます。

(2) ガイドラインを引く

画像を分割するためのガイドラインを引いておきます。

(3) [スライス] ツールでスライスを作る

[スライス] ツールを使って、ガイドラインに合わせてスライスを作ります。

(4) 選択範囲からスライスを作る

GIFアニメーション用に、蝶の部分を選択してスライスに変換します。

(5) スライスのサイズを調整する

スライスのサイズを微調整します。

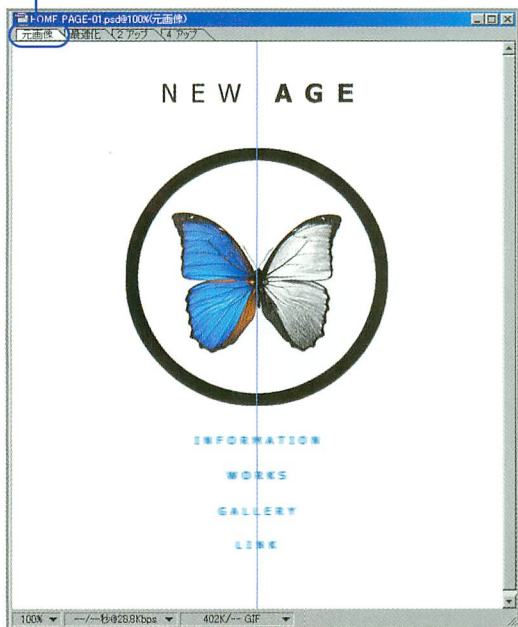
ホームページ用の画像を開く

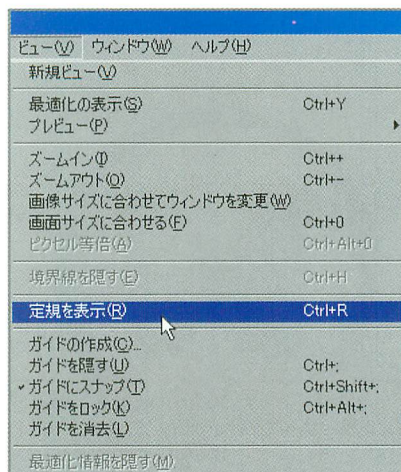
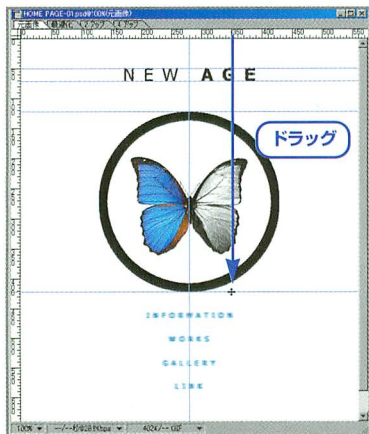
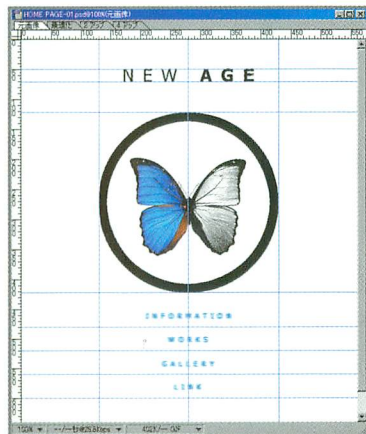
STEP2で作成した画像をImageReadyで開いてください。ここから新規に始める人は、CD-ROMに用意してあるファイルを開いてください。

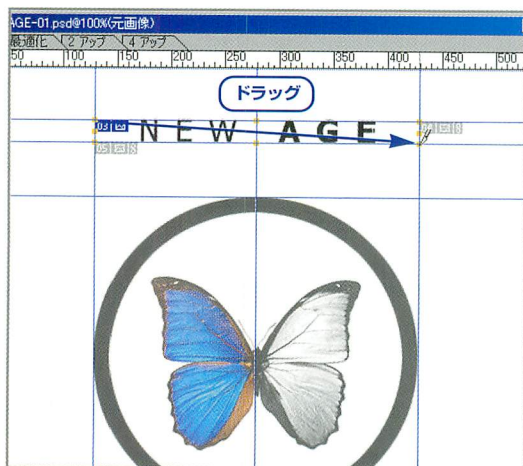
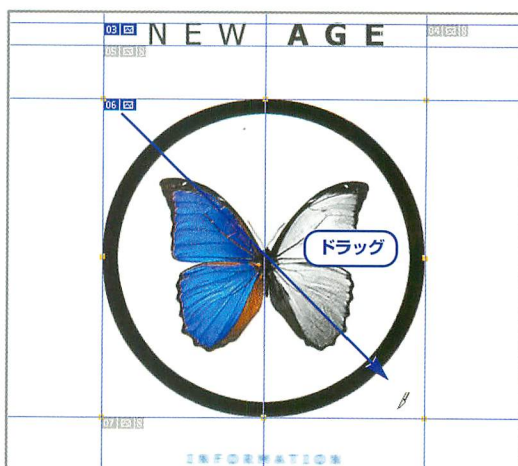
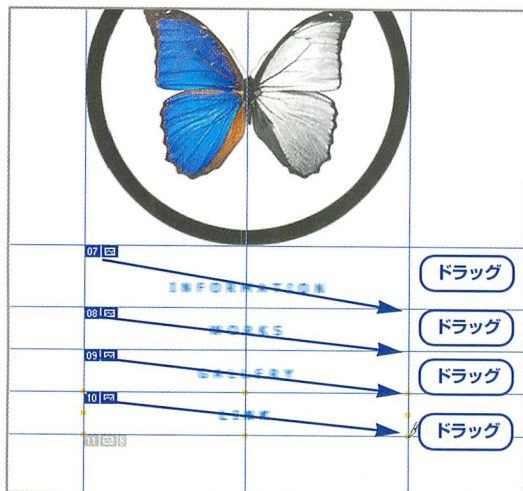
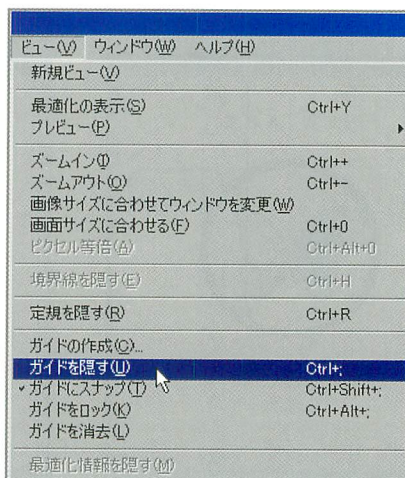
1 ImageReadyを起動し、[ファイル] メニュー→ [開く] で、「7_Sunday」フォルダの中の「step2完成」フォルダにある「HOME PAGE-01.psd」ファイルを開きます。STEP2でPhotoshopで「HOME PAGE-01」を作成した人は、Photoshopのツールボックスでlmage Readyに切り替えてください。

☞ヒント!!

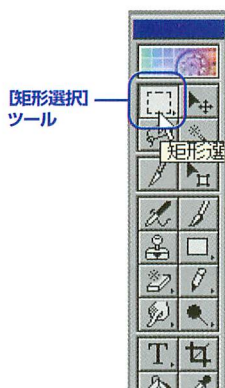
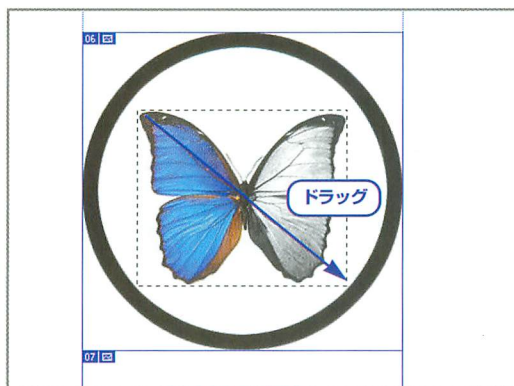
レイヤーの選択は不要

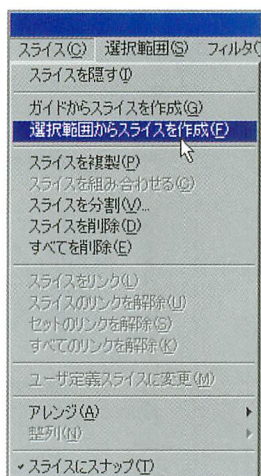
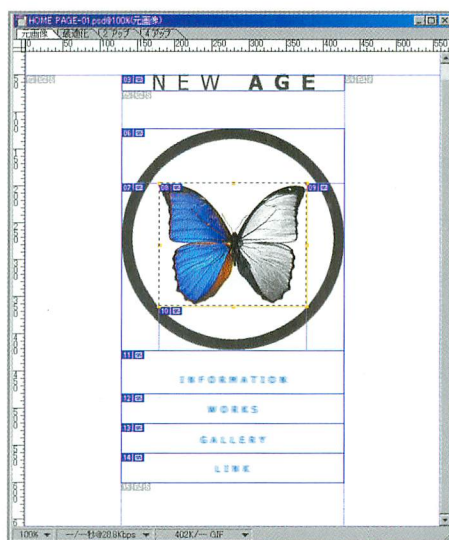
これからスライス（画面を分割する作業）を行いますが、画面に対して行いますので、どのレイヤーが選ばれていてもかまいません。レイヤーが関係してくるのは、STEP4で説明するロールオーバーの設定や、STEP5で説明するGIFアニメーションの設定のときだけです。

［元画像］タブ

2 Photoshopで作成したファイルが開きます。もし分割画面になっているようなら、［元画像］タブをクリックしてください。

3 ［ビュー］メニュー→［定規を表示］（Ctrlキー＋R）を選びます。

4 「NEW AGE」の文字の上下と、中央の円の四方にガイドラインを作成します。

5 さらに、4つの項目に対しても、図のようにガイドラインを作成します。

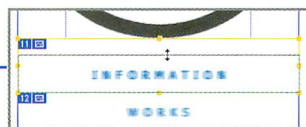
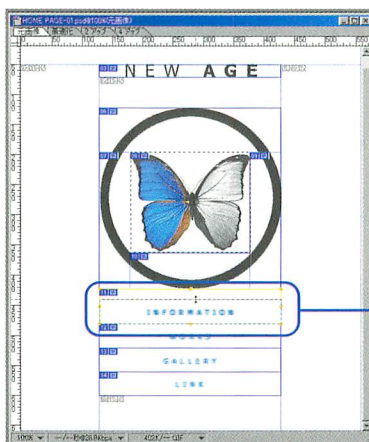
6 ツールボックスから［スライス］ツールを選びます。

7 「NEW AGE」というタイトル部分を、ガイドに合わせてドラッグして囲みます。

8 同じく、円の周囲のガイドラインに合わせて、[スライス] ツールでドラッグします。

9 下の4つの文字も、ガイドラインに合わせてドラッグしてください。これで基本的なスライスは完了しました。この蝶の部分をSTEP5でGIFアニメーションにします。

10 ガイドラインはもう使いませんので、[ビュー] メニュー→ [ガイドを隠す] (Ctrlキー+;) で、非表示にしておきましょう。

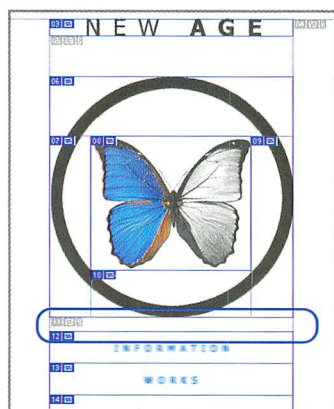
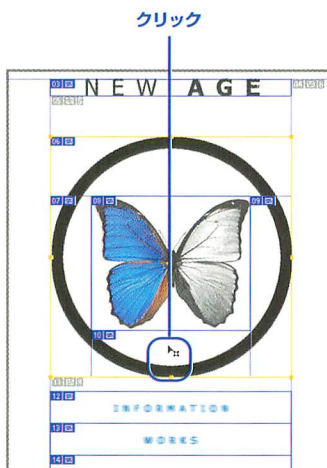
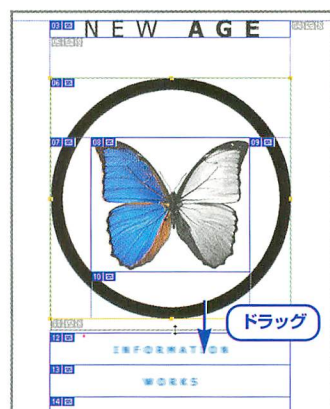
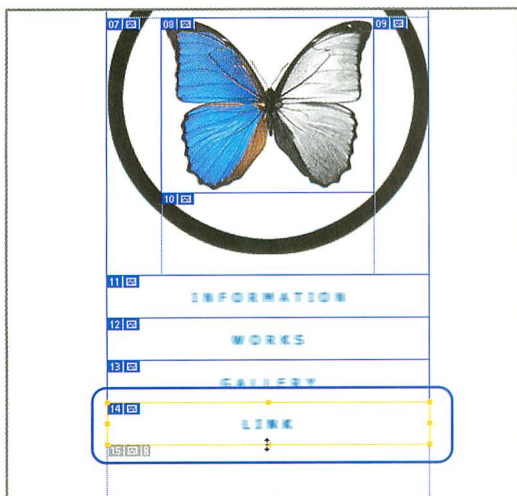
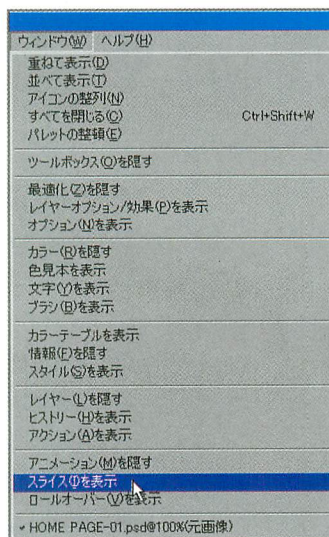
選択範囲をスライスにする

今度は、GIFアニメーションにするために、蝶の部分だけを選択してから、その選択範囲をスライスにしましょう。

1 ツールボックスから［矩形選択］ツールを選んでください。

2 蝶だけをドラッグして囲みます。なるべく余白ができないように、ぎりぎりにドラッグしてください。

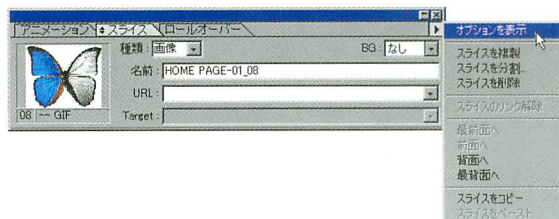
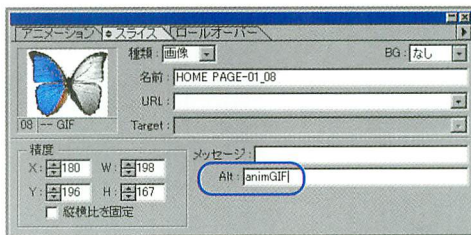
> **ここがポイント!!**
>
> **画像をぎりぎりに選択する**
>
> GIFアニメーションは、静止画に比べて表示には大量のメモリを要します。少しでもメモリの負担を少なくするために、小さいサイズで作るのがポイントです。できるだけ無駄な余白ができないように、画像をぎりぎりに選択します。

3 ［スライス］メニュー→［選択範囲からスライスを作成］を選びます。

4 選択した蝶が新たにスライスに追加され、それ以降のスライスの番号が順送りされます。スライスの番号が自動的に更新されるのです。余白でクリックするか、Ctrlキー＋Dで選択を解除してください。

スライスの大きさを変更する

［スライス選択］ツールを使って、さきほど作成したスライスの大きさを調整してみましょう。

1 ツールボックスから［スライス選択］ツールを選びます。

2 11番のスライスを選択します。周囲にハンドルが表示されますので、一番上のハンドルを少し下にドラッグして、スライスの高さを縮めます。

3 高さを縮めると上に空きができて、その空きも分割されてしまいます。スライスの番号も1つずつ増えています。

4 調整して無駄な空きをなくしましょう。上のスライス（円のスライス）をクリックします。蝶は別のスライスになっていますから、蝶以外をクリックしてください。

5 円のスライスが選択され、ハンドルが表示されます。下のハンドルをドラッグして下げ、空き（11番のスライス）をなくしましょう。スライスの番号が元に戻ります。

6 11番の［INFORMATION］のスライスと同じ高さになるよう、12番から14番までのスライスの高さを調整してください。

7 ［スライス］パレットを使いますので、画面に出ていなければ、［ウィンドウ］メニュー→［スライスを表示］を選択し、［スライス］パレットを出します。

☞Alt（オルト）

Altは、ブラウザ上で画像がうまく表示されなかったときに、画像の代わりに文字を表示する機能です。ここでは、蝶が表示されないときに、「animGIF」という文字が表示されるように設定しています。

8 8番の蝶のスライスを選択して、［スライス］パレットのメニューから［オプションを表示］を選びます。

9 パレットに追加項目が現れます。［種類］は［画像］、［名前］には自動的にファイル名とスライス番号が入力されているまま、［Alt］の入力ボックスに［animGIF］と入力します。

ロールオーバーの設定とHTML書き出し

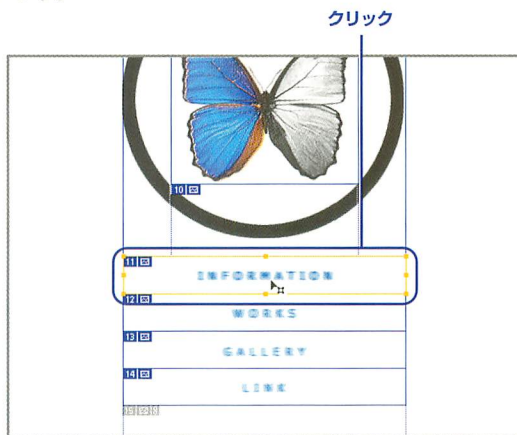
このステップの流れ

スライスによる画面の分割作業が終わったら、いよいよスライスにリンク先やロールオーバーの設定を行いましょう。

(1) ボタンの設定
(2) ロールオーバーの設定
(3) 空白スライスの設定
(4) 最適化保存
(5) HTML書き出し

ボタンの設定

11番の［INFORMATION］というスライスにリンク先のURLを指定して、クリックするとリンク先へジャンプするように設定します。12番から14番のスライスに対しても同様の設定を行います。

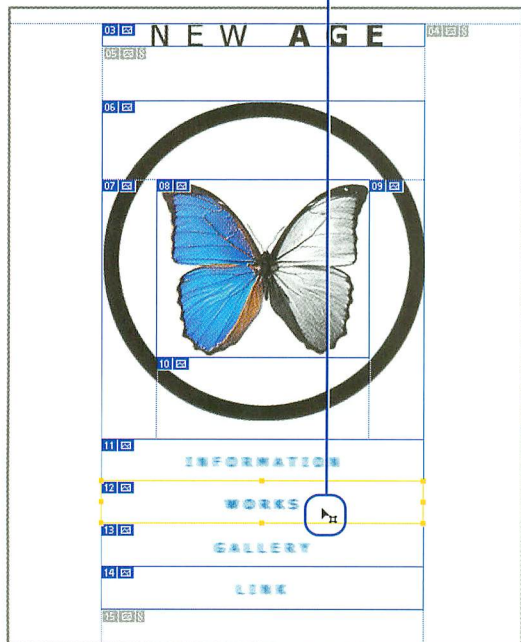
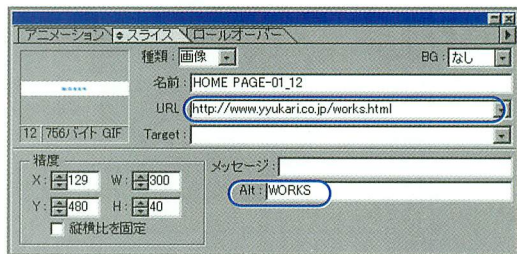
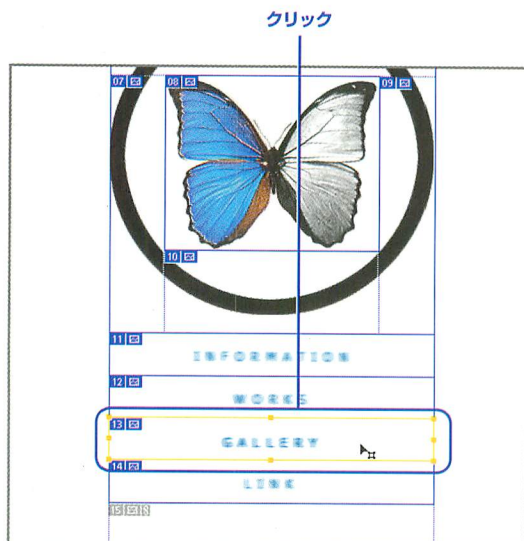
1 ツールボックスから［スライス選択］ツールを選びます。

2 ［INFORMATION］の11番のスライスをクリックして選びます。

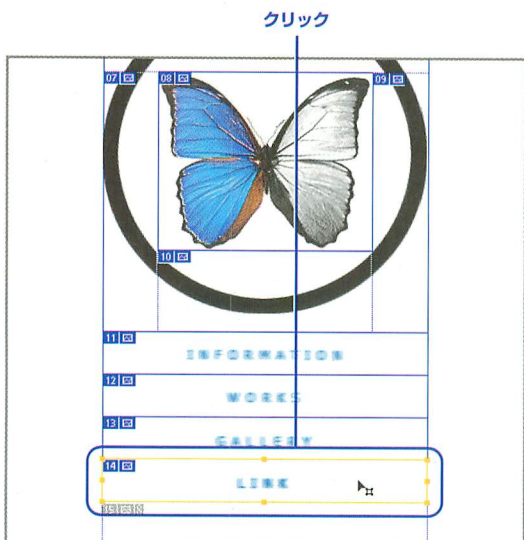
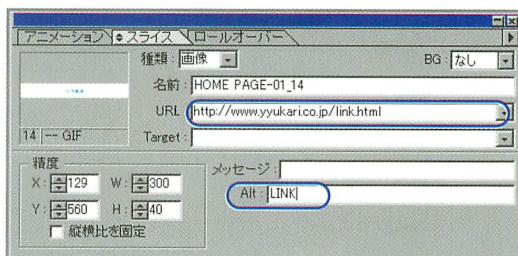
3 ［スライス］タブをクリックして、［スライス］パレットに切り替えます。ボタンのリンク先を［URL］欄に入力しましょう。ここでは適当なURL（http://www.yyukari.co.jp/info.html）を指定しています。画像が表示されなかったときのために、［Alt］には［INFORMATION］と入力してください。

☞ヒント!!

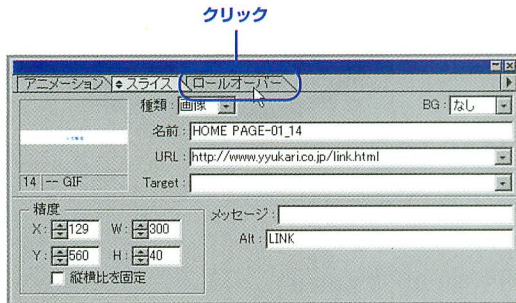
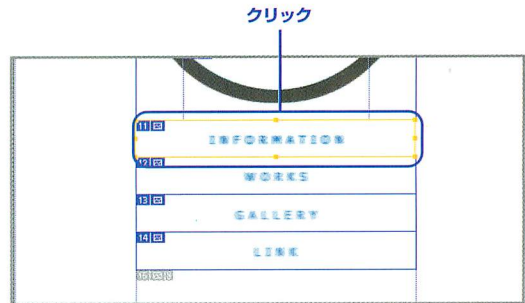
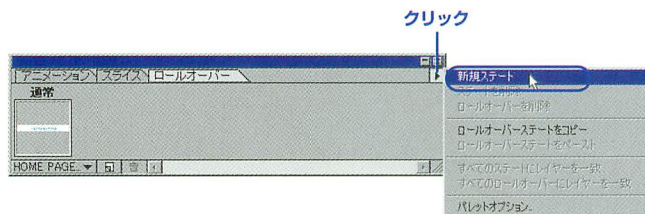
［名前］には、自動的にファイル名とスライス名が入力されますが、実際には自分でわかりやすい名前を入力しておくことをおすすめします。

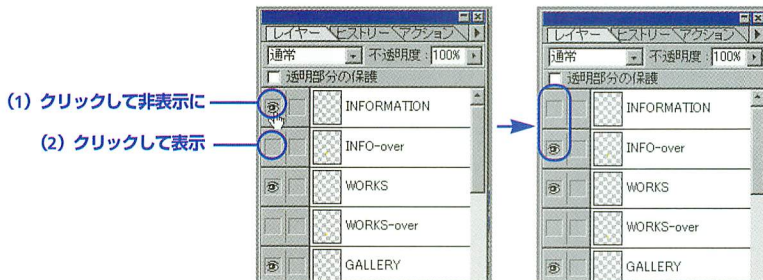
☞注意!!

特別付録CD-ROMの中の完成ファイルにも、適当なURLが記入してあります。クリックするとインターネットに接続しようとしますので、注意してください。

4 ［スライス選択］ツールで、12番の［WORKS］というスライスをクリックします。

5 ボタンのリンク先（架空のWORKSページ）を［URL］欄に入力します。画像が表示されなかったときのために、［Alt］に「WORKS」と入力します。

6 [スライス選択] ツールで、13番の [GALLERY] というスライスをクリックします。

7 ボタンのリンク先（GALLERYページ）を [URL] 欄に入力します。画像が表示されなかったときのために、[Alt] に [GALLERY] と入力します。

8 [スライス選択] ツールで、14番の [LINK] というスライスをクリックします。

9 ボタンのリンク先（LINKページ）を [URL] 欄に入力します。画像が表示されなかったときのために、[Alt] に [LINK] と入力します。

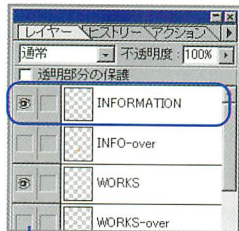
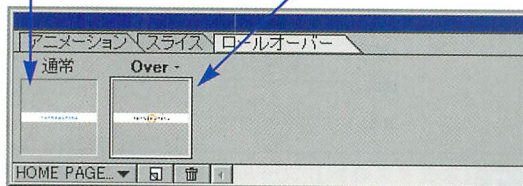
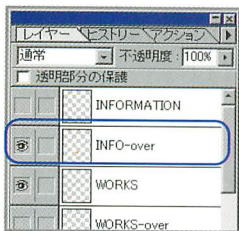
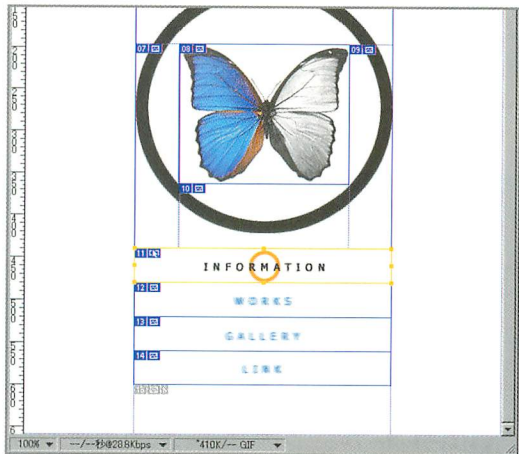
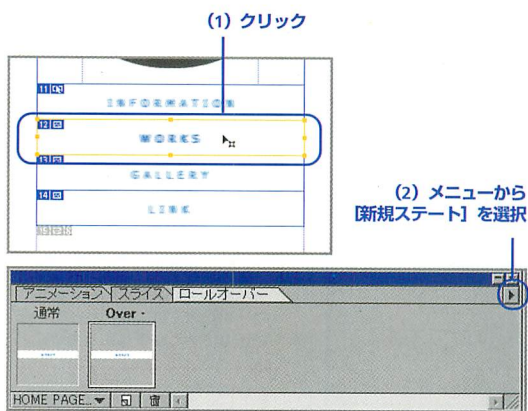
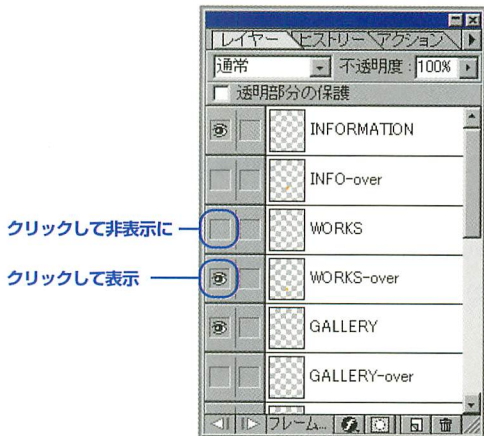
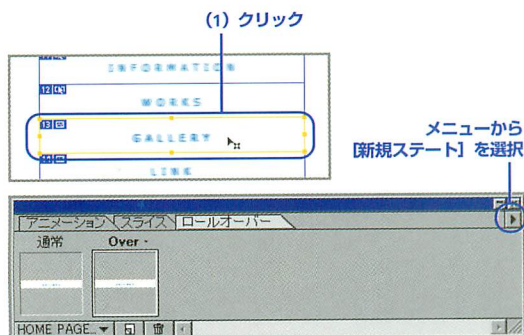
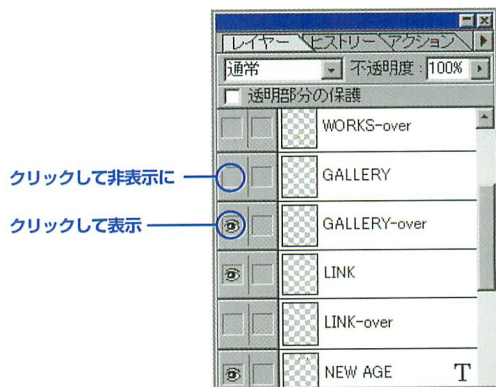
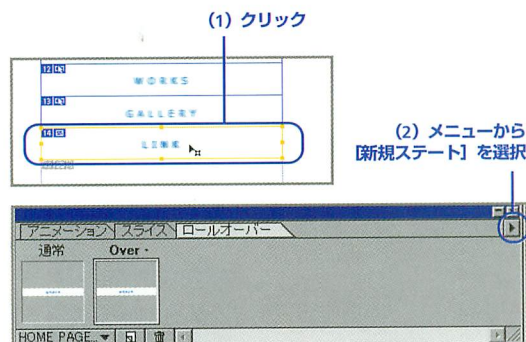
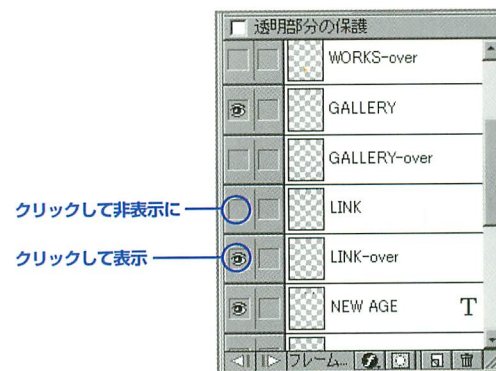
ロールオーバーの設定

ボタンの設定を行った4つのスライスに、「ロールオーバー」の設定をしてみましょう。ロールオーバーには5種類の効果が用意されていますが、ここでは、マウスポインタが重なったとき絵柄を切り替えるように設定してみましょう。

1 [ロールオーバー] タブをクリックして [ロールオーバー] パレットに切り替えます。

2 [スライス選択] ツールで、スライス番号11の [INFORMATION] をクリックして選びます。

3 [ロールオーバー] パレットのメニューから [新規ステート] を選びます。

4 [Over] というステートが作成されました。このステートに、マウスが重なったときの絵柄を指定するのです。

5 [Over] というステートが選択されている状態で、[レイヤー] パレットの [INFORMATION] レイヤーを非表示にし、[INFO-over] を表示にします。表示と非表示の切り替えは、目のアイコンをクリック、でしたよね。

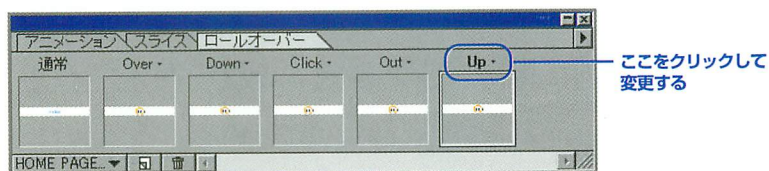
ヒント!!

レイヤーの選択は不要です

ここでは見やすいようにレイヤーを選択していますが、ロールオーバーの設定では、特にレイヤーを選択しておく必要はありません。

6 マウスがオーバーしたときに、［INFO-over］レイヤーが表示される設定になりました。［ロールオーバー］パレットで確認すると、［通常］に［INFORMATION］レイヤー、［Over］に［INFO-over］レイヤーが表示されています。

7 この画面が、マウスポインタが［INFORMATION］に重なったとき（オーバーしたとき）の状態です。

8 スライス番号12の［WORKS］をクリックして選び、パレットのメニューから［新規ステート］を選びます。

9 ［Over］というステートが選択されている状態で、［レイヤー］パレットで、［WORKS］レイヤーを非表示にし、［WORKS-over］レイヤーを表示します。

10 スライス番号13の［GALLERY］をクリックして選び、パレットのメニューから［新規ステート］を選びます。

11 ［Over］というステートが選択されている状態で、［レイヤー］パレットで、［GALLERY］レイヤーを非表示にし、［GALLERY-over］レイヤーを表示します。

12 スライス番号14の［LINK］をクリックして選び、パレットのメニューから［新規ステート］を選びます。

13 ［Over］というステートが選択されている状態で、［レイヤー］パレットで、［LINK］レイヤーを非表示にし、［LINK-over］レイヤーを表示してください。

☞ヒント!!

ロールオーバーの種類

ロールオーバーには、マウスポインタが重なったとき（オーバーしたとき）だけでなく、マウスのボタンを押したとき（Down）、クリックしたとき（Click）、マウスポインタがボタンから離れたとき（Out）、マウスのボタンを離したとき（Up）の5つの状態に対して、それぞれ設定することができます。これらを総称して「ロールオーバー」といいます。

空白スライスの設定

[画像なし] スライスにする

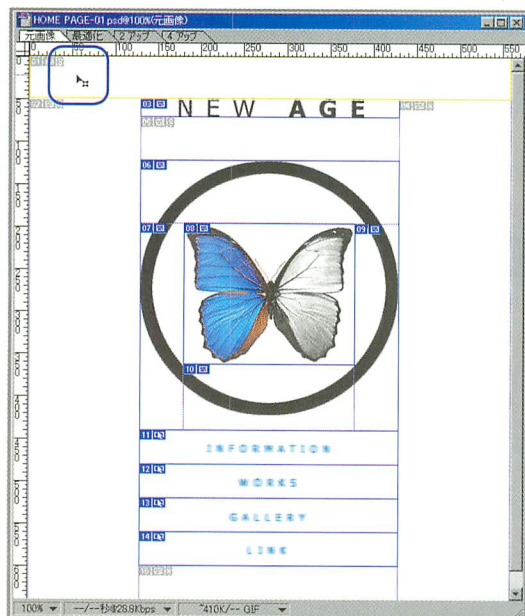
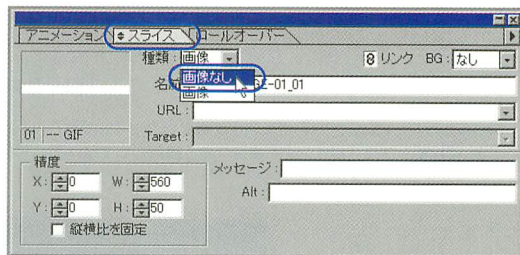
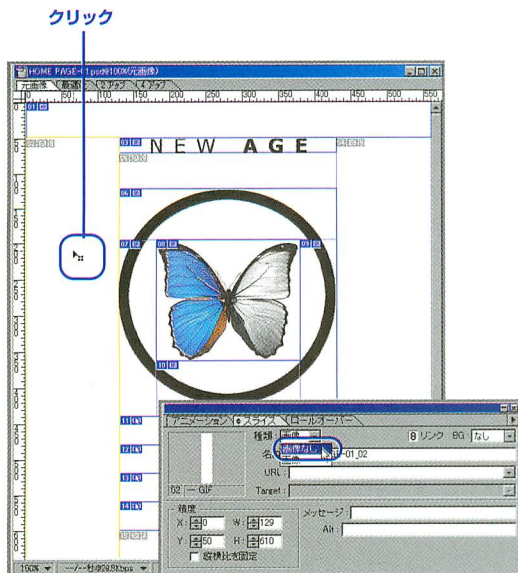
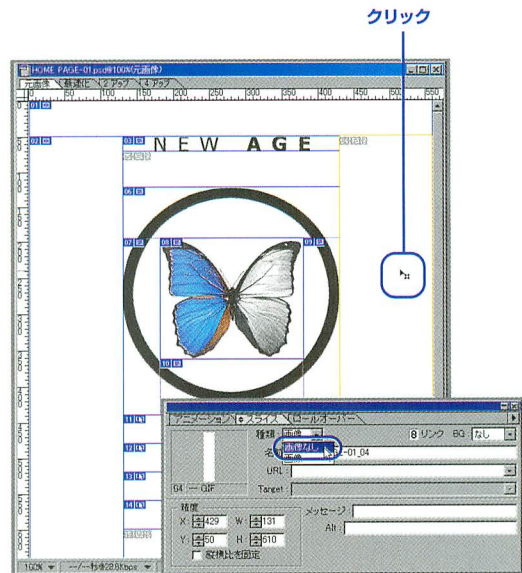
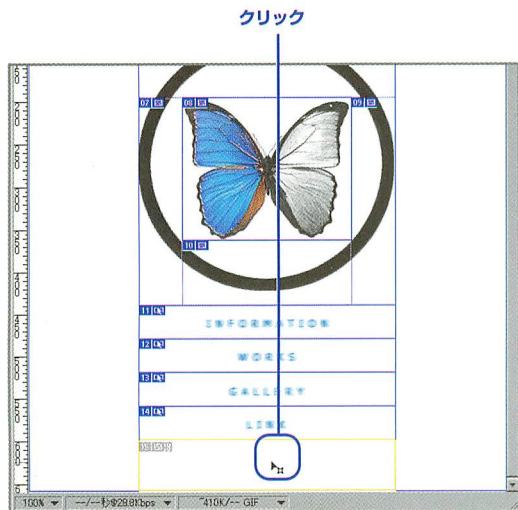
何もない部分（スライスの番号で言うと、1番、2番、4番、15番）を、「画像なし」という設定にします。こうしておけば、画像として扱われないのでデータサイズが小さくなります。

ヒント!!

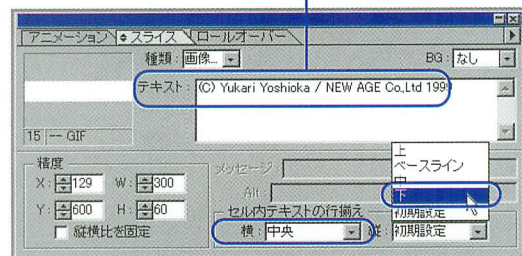
透明gif、ピクセルgifとも呼ばれる［画像なし］ファイルの実体は？

［画像なし］に設定すると、画像ファイルを書き出したときに「spacer.gif」という名前で作成されます。このファイルは1×1ピクセルのファイルなので、データサイズはとても小さいわけです。実際にはHTML側で大きさや位置などを指定して全体を表示させています。

▲［画像なし］設定で書き出したファイル。

▲ファイルを開いたところ。

1 ［スライス選択］ツールで、画面の一番上の01番スライスを選びます。

2 ［スライス］タブをクリックして［スライス］パレットに切り替え、［種類］を［画像なし］に設定します。

3 次に、02番の空白スライスをクリックして、[スライス] パレットで [種類] を [画像なし] にします。

4 同様の手順で04番の空白スライスも [画像なし] の設定を行います。

5 15番の空白スライスをクリックして、選択状態にします。

☞コピーライト

コピーライト（copyright）は著作権のことです。「この私（この会社）に、許可なく使うな」という意味で明記します。フォントの有無にかかわらず、どのマシンでも表示されるように、記号は使わず「copyright」または「(C)」と入力しておくとよいでしょう。

6 [スライス] パレットで [種類] を [画像なし] にし、[テキスト] にコピーライトを入力します。[セル内テキストの行揃え] は [横] を [中央] に、[縦] を [下] にしてください。

最適化保存――Web画像を作る

☞JPEG（ジェーペグ）

Joint Photographic Experts Groupの略。

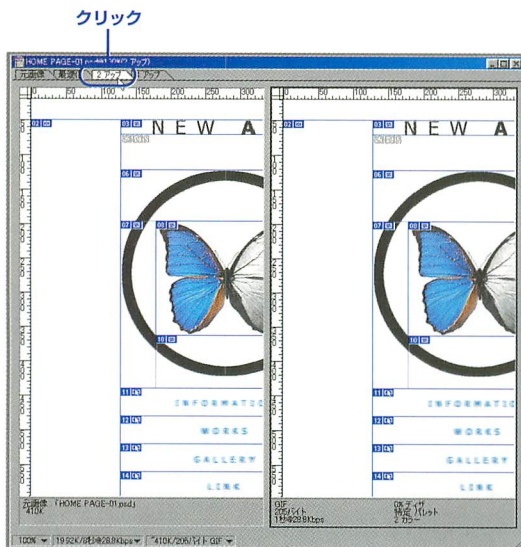
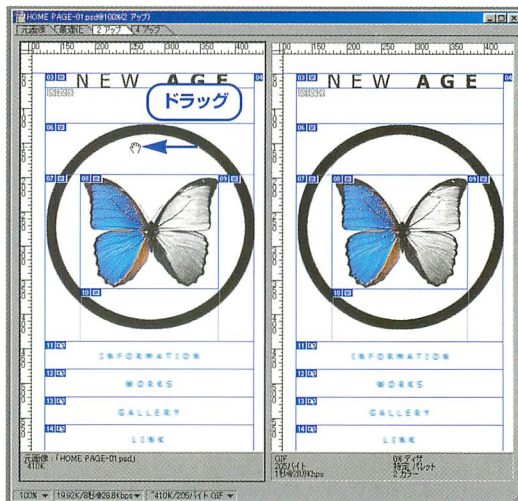
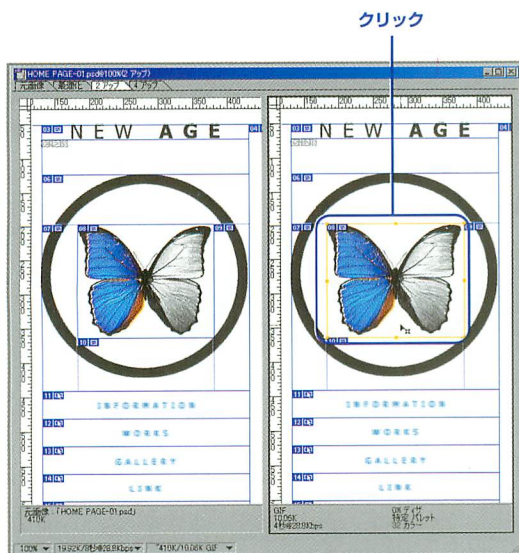
☞GIF（ジフまたはギフ）

Graphics Interchange Formatの略。

Web用画像で最も広く使われているファイル形式はJPEGとGIFです。JPEGは写真のような連続階調のある画像に適しています。GIFは文字やイラストのように単色のエリアが大きく、輪郭がシャープな画像に適しています。今回作ったサンプル画像にはGIFが適しているので、ここではGIF画像の最適化を行います。

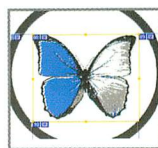
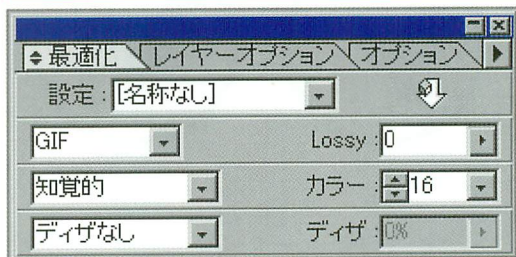
☞ヒント!!

PNG（ピング）

Portable Network Graphicsの略です。PhotoshopとImageReadyでは、PNG-8/24形式もサポートされていますが、PNGはまだ一般的ではなく、ブラウザによっては表示されないこともあります。

1 ［2アップ］タブをクリックします。ウィンドウが2分割されます。

2 ツールボックスから［手のひら］ツールを選び、蝶全体が見えるように表示位置を調整します。

3 ツールボックスから［スライス選択］ツールを選び、右側の分割画面の蝶をクリックします。

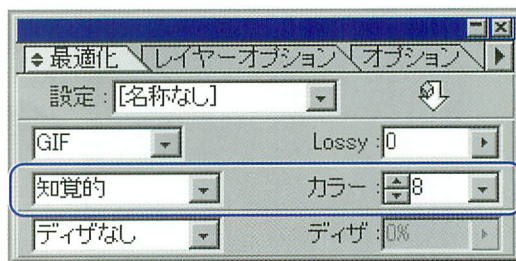
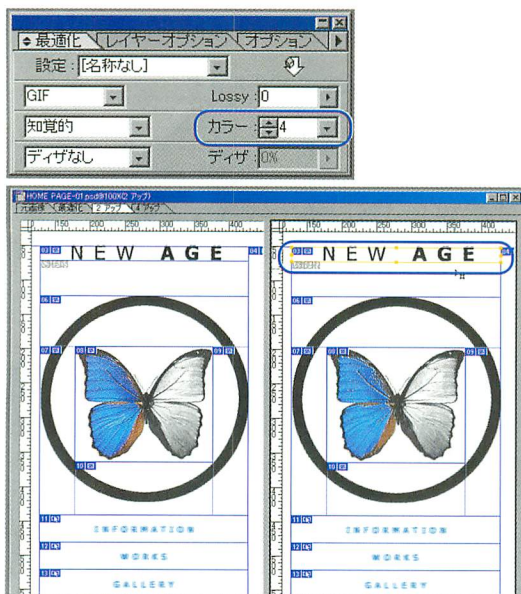
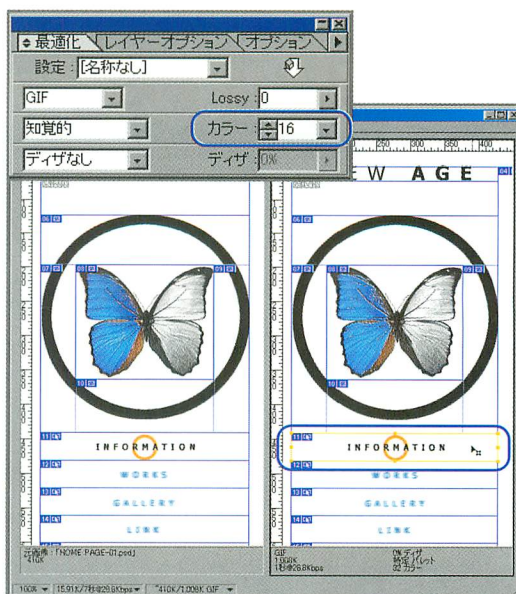
☞ヒント!!

色数の適正値は？

いろいろ試して、見た目におかしくない色数にします。データのサイズを抑えるのが最大の目的なら、もちろん劣化はしますが、色数を少なくするとデータサイズが小さくなります。

▲［カラー］で色数を4に設定すると、［カラーテーブル］で黒、青、白、透明の4色で描かれていることがわかります。

4 ［最適化］パレットで、左上から［GIF］、［Lossy：0］、［知覚的］、［カラー：16］、［ディザなし］に設定します。自動的に画像が変換され、変換後の状態が表示されます。

5 次に、右側の分割画面で、06番の［円］スライスを選びます。

☞ジャギー

ぎざぎざのこと。ジャギーを目立たなくするために、輪郭を多少ぼかすことを「アンチエイリアス」といいます。アンチエイリアスでは輪郭が背景になじむようにだんだん透明になるため、見た目は単純な黒い線でも、数色が使われています。

6 ［最適化］パレットで［知覚的］、［カラー：8］に設定します。この場合、輪郭に多少ジャギーが見えますが［カラー：4］でもかまいません。［カラー：2］にすると、白黒2色だけなのでジャギーが目立ちます。

7 次に右側の分割画面で、03番の［NEW AGE］のスライスを選び、［最適化］パレットで［カラー：4］に設定します。

8 同じく右側の分割画面で、11番の［INFORMATION］のスライスを選びます。［最適化］パレットで［カラー：16］に設定します。青1色のように見えますが、ぶれた感じを出すためにぼかしていますから、同系色のたくさんの色を使っているのです。12〜14番のスライスもこれと同じ設定にしましょう。

☞ヒント!!

背景を透明にしたい

GIF画像では、GIF89aという、画像の一部を透明色として指定できる形式があります。これを使う場合は、［WEB用に保存］ではなく、Photoshopの［イメージ］メニュー→［モード］→［インデックスカラー］でインデックスカラーに変換し、［ファイル］メニュー→［データ書き出し］→［GIF89a書き出し］を選んで「GIF89a書き出し」を行います。

クリック

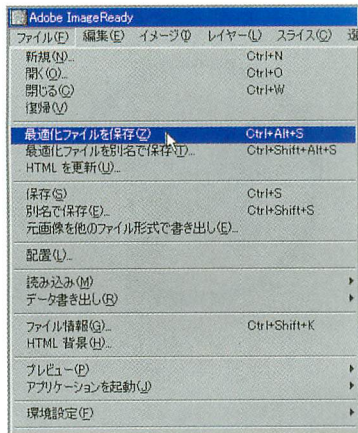
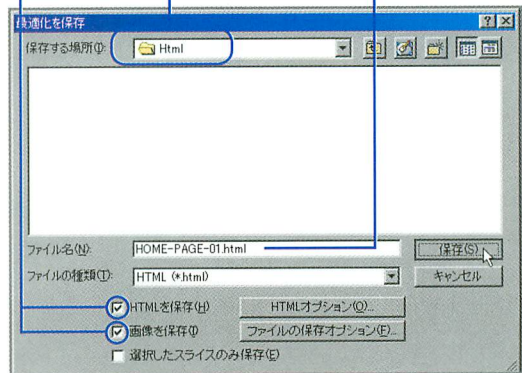
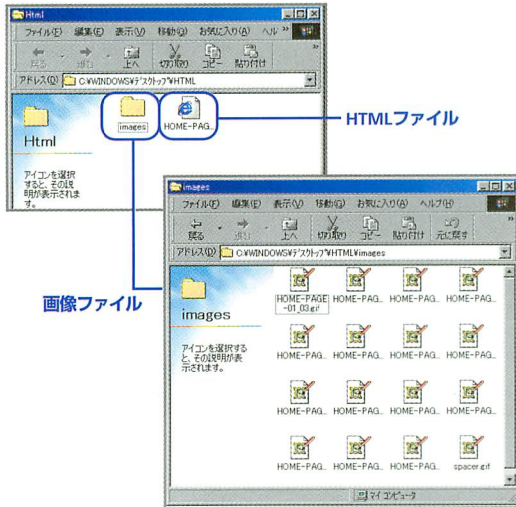
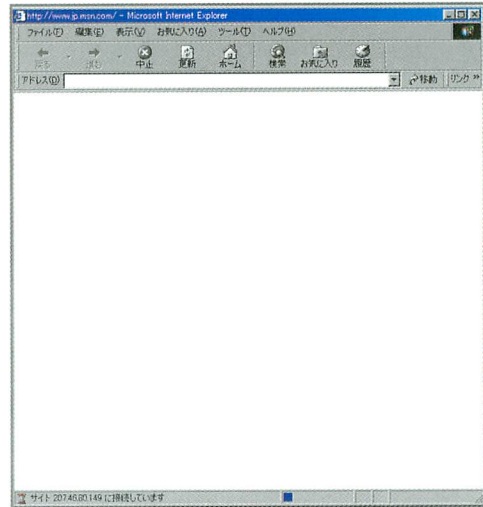
▲［GIF89a書き出しプレビュー］ダイアログボックスで、透明にしたい色をクリックします。最後に［OK］をクリックします。

☞ヒント!!

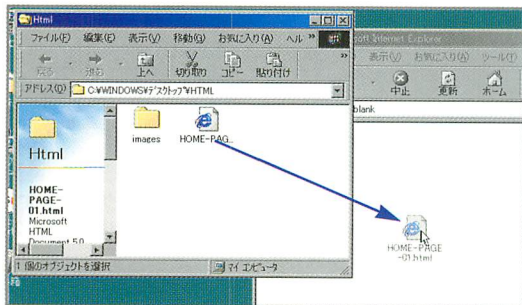
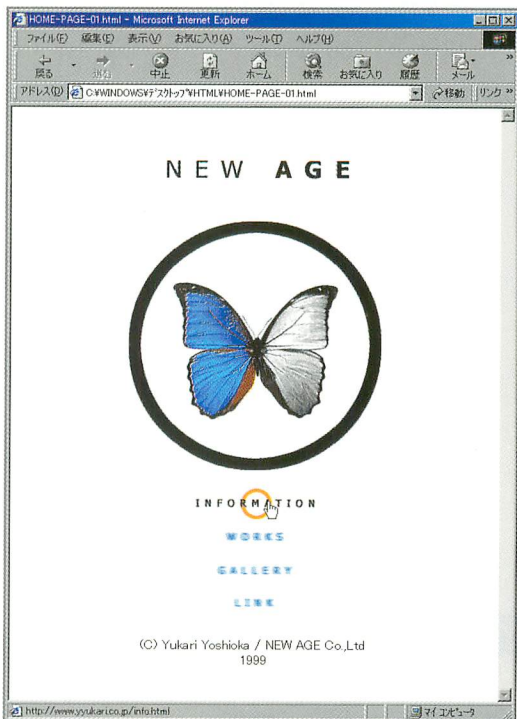
インタレースとプログレッシブ

Webページを開いたときに、画像がなかなか表示されなくて、いらいらしたり退屈な思いをしたことはありませんか。そうならないために、GIFには「インタレース」が、そしてJPEGには「プログレッシブ」という仕組みが用意されています。ファイルを保存する際にこれを指定しておくと、Webページで表示する際に、画像データをダウンロードしながら少しずつ画像が表示されていきます。1KB以下のちょっとした画像ならともかく、メインビジュアルとなる画像はサイズが大きかったり、きれいに見せるために色数が多かったりするため、ファイル容量も大きくなりがちです。Webページを見る人への配慮を忘れないようにすることは、ホームページ制作者にとって、とても大事なことです。ImageReadyのウィンドウの左下に表示される画像のファイルサイズやダウンロード時間などを、常に意識するように心掛けてください。

HTML書き出し

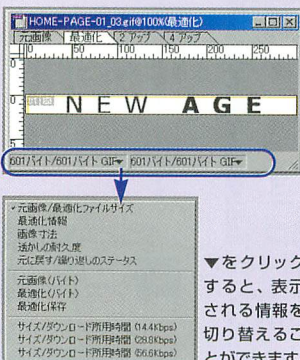
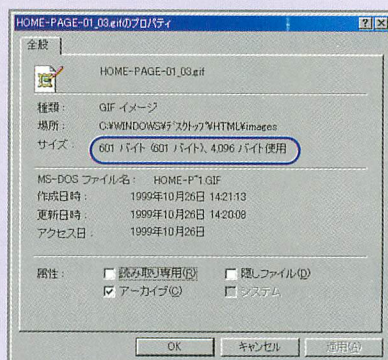
ロールオーバーやGIFアニメーションの動きがうまくいっているかを確認するために、ここで保存して、ブラウザで確認してみましょう。

1 ［ファイル］メニュー→［最適化ファイルを保存］（Alt＋Ctrlキー＋S）を選択します。

2 ［HTMLを保存］［画像を保存］にチェックをします。保存先と保存名を指定し、［保存］ボタンをクリックします。

3 デスクトップ画面に切り替えて保存先を確認すると、HTMLで書き出されたファイル（右）と、「images」フォルダに収められた画像ファイル（左）が作成されているのがわかります。

4 Internet Explorer、Netscape Navigatorなどのブラウザソフトを起動します。

☞ヒント!!

ブラウザを起動しないで、ファイルをダブルクリックしてもかまいません。

5 デスクトップ画面で、HTMLファイルをブラウザのウィンドウにドラッグ＆ドロップします。

6 HTMLファイルがブラウザのウィンドウに現れます。ためしに［INFORMATION］にマウスポインタを合わせてください。ロールオーバーの設定がうまくいっていれば、画像が切り替わるはずです。

ここがポイント!!

データサイズの確認

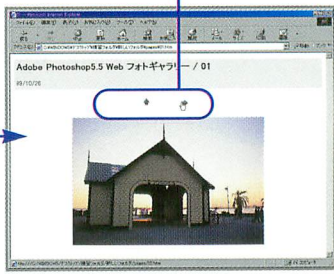
常にデータサイズを確認しながら作業をすすめるようにしましょう。最終的なデータサイズは、［最適化］パレットの設定で、最適化された画像の情報（データサイズなど）はウィンドウ左下ステータスバーで確認することができます。書き出したファイルは、ファイルのアイコンを右クリックして、ショートカットメニューの［プロパティ］で確認することもできます。ひとつひとつのファイルサイズだけでなく、フォルダ全体のファイルサイズも確認するようにしてください。

▼をクリックすると、表示される情報を切り替えることができます。

☞新機能!!

自分の作品をWebに公開しよう！

あまりに簡単に、なんでもかんでもギャラリーにしたくなってしまうような機能が、Photoshopの［自動処理］の新機能［Webフォトギャラリー］です。面倒なHTMLを書かずに、あっという間にギャラリーを作ってくれます。［自動処理］には、実行元と保存先のフォルダを指定するだけで、フォルダ内の画像を一括処理してくれる便利な機能が用意されています。その他［コンタクトシート］（画像一覧リスト作成）も、画像のリスト作りに重宝する機能です。

1 ［ファイル］メニュー→［自動処理］→［Web フォトギャラリー］を選択します。

矢印をクリックして、次（または前）の作品を順番にみることができる

2 ダイアログが現れたら、素材の入っているフォルダと保存先のフォルダを指定して［OK］ボタンをクリック。少し待っていると、ブラウザが起動して素材の一覧が作成されます。

ちょっとコラム ファイルサイズにこだわる

●ウィンドウに表示されるファイルサイズ HOME-PAGE-01_... 1KB

保存したファイルをウィンドウで確認すると、プロパティのサイズと異なっていることがわかります。ウィンドウのサイズは、そのデータが保存されているディスクボリュームの占有スペースの大きさです。ボリュームのサイズによって占有スペースの最小単位は異なりますから、同じデータ量のファイルでも、それを数GBのハードディスクに保存したときと、フロッピーディスクに保存したときでは、この数字は変わってきます。

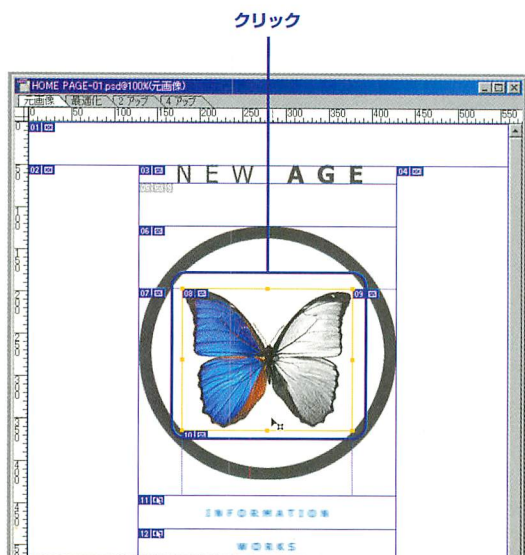
●ファイルの圧縮方法について

JPEG形式は、圧縮率を高くすると数十KBの写真も数KBになったりしますが、画質もそれだけ劣化してしまいます。文字などの輪郭が大切な画像には適しません。ジャギーっぽくなる場合もあるので、Photoshop、ImageReadyの最適化パレットには［ぼかし］オプションが用意されています。また、JPEG形式は保存するたびにどんどん画質が劣化するので、注意が必要です。

GIF形式は、画像に使われている色数を少なくすることで、データサイズを圧縮してくれます。さらに、Photoshop、ImageReadyでは、JPEGのように画質の劣化するGIF圧縮もサポートしています。これが最適化パレットにある［Lossy］です。データの一部を捨ててしまう圧縮なので、画質が劣化しますが、データサイズをさらに小さくすることができます。通常、数%程度の圧縮率なら画質が目立って劣化することはありません。ただし、インタレースを指定するとLossy圧縮は使えなくなってしまいます。

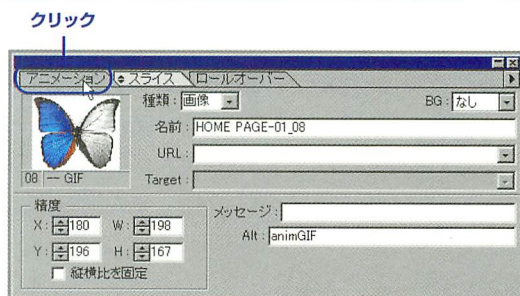
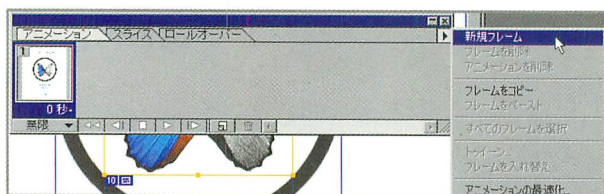
GIFアニメーションを作る

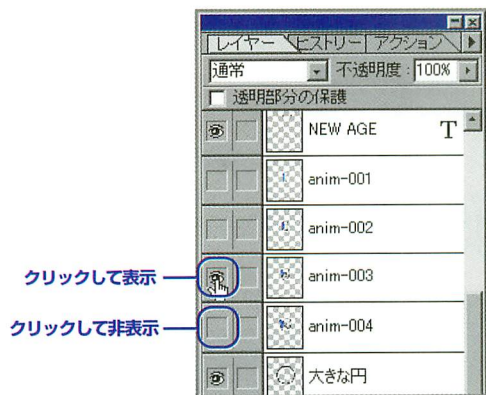
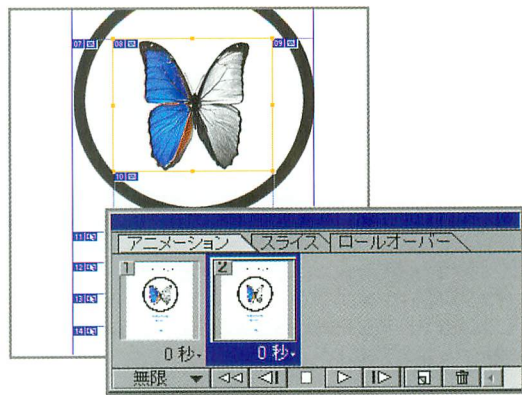
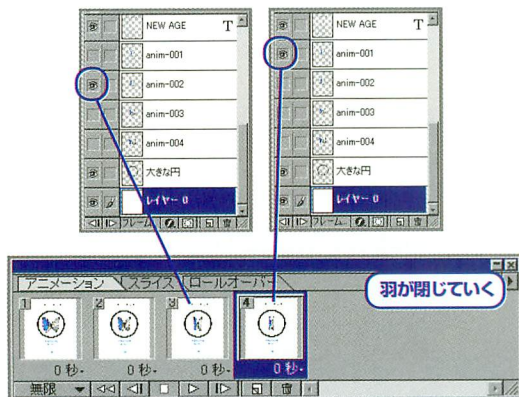
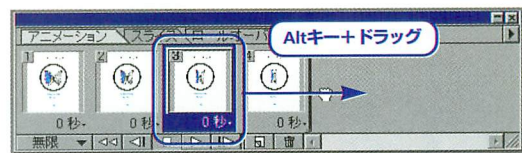
アニメーションの設定

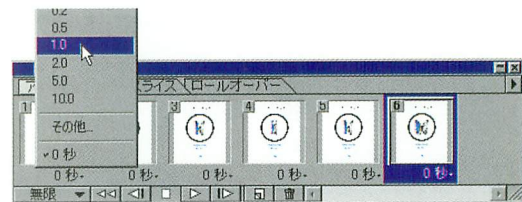
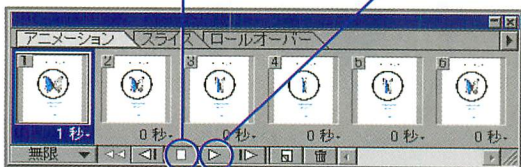
ホームページ上で動くアニメーションは、人目を引き付ける効果大です。さあ、蝶が羽を動かしているアニメーションを作って、ホームページを仕上げましょう！

1 ［スライス選択］ツールで8番の蝶のスライスをクリックします。

☞ヒント!!

［アニメーション］パレットが出ていないときは

［アニメーション］パレットは、［スライス］［ロールオーバー］パレットとグループになっています。もし画面に表示されていないときは、［ビュー］メニュー→［アニメーションを表示］を選んでください。

2 ［アニメーション］タブをクリックして、パレットを切り替えます。

3 ［アニメーション］パレットのメニューから［新規フレーム］を選びます。

4 2つ目のフレームが作成されました。フレームを作成した時点の絵柄が適用されますので、現在はフレーム1と2は同じ絵柄です。

5 ［アニメーション］パレットの［フレーム2］が選択されている状態で、［レイヤー］パレットの［anim-003］を表示し、［anim-004］を非表示にします。目のアイコンをクリックしてください。

6 画面に表示されている絵柄が変わり、同時にフレーム2の絵柄も［anim-003］に変わります。

7 同様の手順で、新しいフレームを作成して、フレーム3に対しては［anim-002］レイヤーを表示し、フレーム4に対しては［anim-001］レイヤーを表示します。フレーム1～4で、蝶の羽が閉じていく様子を表します。

8 今度は羽を広げていく動きを作成しましょう。フレーム3を選択して、Altキー＋ドラッグでフレーム4の右側に複製します。フレーム3をフレーム5に複製するわけです。

9 次に、フレーム2を選択して、Altキー＋ドラッグでフレーム6として複製します。フレーム1から4まで羽が閉じ、フレーム5と6で羽が広がります。

10 フレーム6の次はフレーム1に戻るようにします。フレーム1の下の「0秒」と書いてあるところをプレスすると時間設定ができます。ここでは［1.0］秒にしておきます。

11 [アニメーションの再生] ボタンをクリックして、動きを確認してみましょう。蝶の羽が閉じたり開いたりするアニメーションになっているはずです。うまく動いていますか？　再生を終わらせるときは、[アニメーションの停止] ボタンをクリックします。

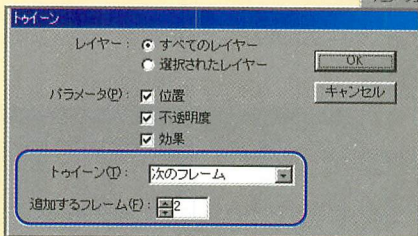
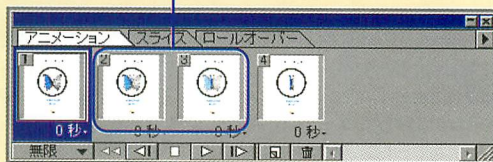
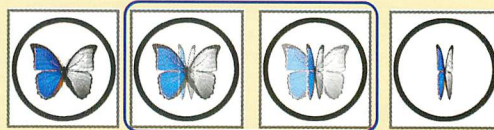
ヒント!!

レイヤーパレットで動きの確認

[レイヤー] パレットの下にある [アニメーションから次のフレームを選択] ボタンをクリックしても、アニメーションの変化を確認することができます。

ちょっとコラム もうひとつのアニメーション作成法

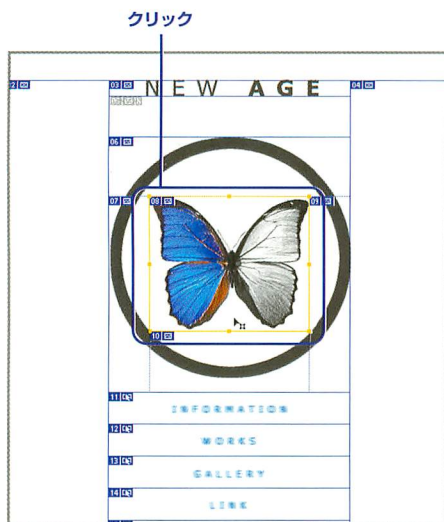
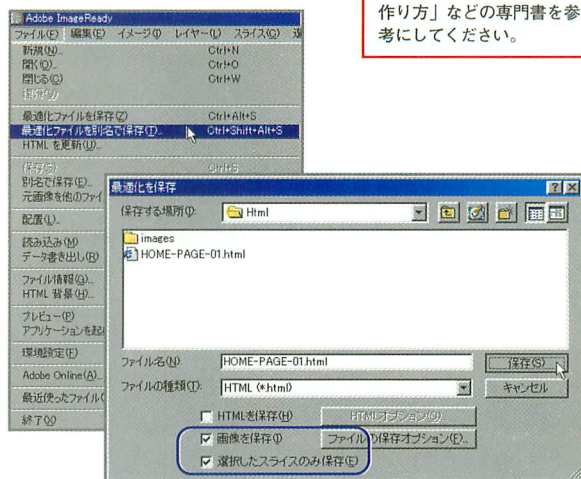
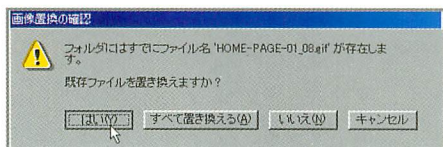
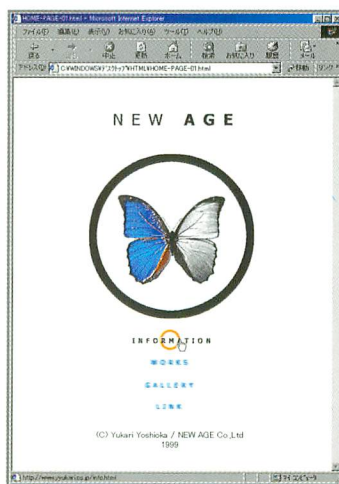
● [トゥイーン] を使って自動フレーム作成

ここでは、アニメーションに使用する画像をPhotoshopで用意しておきましたが、ImageReadyのアニメーション機能には、自動的に中間の動きを表現するフレームを作成してくれるコマンドが用意されています。

1 [アニメーション] パレットでフレーム1を選択し、パレットのメニューの [トゥイーン] を選びます。ダイアログボックスで、[トゥイーン] を [次のフレーム]、[追加するフレーム] を [2] にして、[OK] ボタンをクリックします。

新しく作成されたフレーム

2 フレーム1とフレーム2の間に新しく2つのフレームが作成されます。[不透明度] にチェックを入れていたので、ぶれたような画像が作成され、動いているような効果も付きました。

アニメーション設定後のファイルを保存

変更した部分だけを書き出しましょう。基本的なHTMLファイルは変更せずに、アニメーション設定した蝶の画像だけを書き出します。

☞ヒント!!

ImageReadyで作ったホームページを、さらに編集するには、HTML言語をある程度理解しておくと便利です。詳しくは「一週間でマスターする ホームページの作り方」などの専門書を参考にしてください。

1 [スライス選択] ツールで、蝶のスライスをクリックして選びます。

2 [ファイル] メニュー→ [最適化ファイルを別名で保存] (Ctrl+Shift+Altキー+S) を選びます。アニメーションにした画像だけを書き換えたいので、[HTMLを保存] のチェックは外し、[画像を保存] と [選択したスライスのみ保存] の2つにチェックを入れます。保存先に、さきほど [最適化ファイルを保存] で書き出したフォルダを指定し、名前は変えずに [保存] ボタンをクリックします。

3 アニメーションにする前に書き出した蝶の画像をGIFアニメーションファイルに置き換えるか聞いてきますので、[はい] をクリックして置き換えてください。

4 更新したHTMLファイルをブラウザにドラッグするなどして、確認してみましょう。アニメーションが動き、すべての項目がマウスを重ねたときに反応すればOKです。